

福山 出店者が注意喚起

芦田川かわまち広場 福山市営競馬場跡地に建設された新総合体育館「エフピコアリーナふくやま」に隣接する芦田川河川敷に、国と市が整備した憩いのスペース。県内最大規模のスケートボードパークのほか、パーベキューテラスや芝生広場がある。



福山市などは、同市千代田町の芦田川かわまち広場内にあるスケートボードパークの利用者のマナー違反が後を絶たないため、公募した物販などの事業者にマナー向上に取り組んでもらう社会実験に乗り出す。市が広場内の仮設店舗を割安で貸し出す代わりに協力を求める。事業者の公募を14日始めた。(門戸隆彦)

マナー向上へ社会実験

芦田川かわまち広場 通路でスケボー

県内最大規模のパークの利用は登録制で、市外も含め約700人が登録している。無料駐車場からパークまで約230メートル続く自転車歩行者用通路(幅約4メートル)でスケボーを滑らせる姿が目立つ。持参した三角

山市を舞台にした「ばらのまち福山音楽祭」の実行委員会は14日、市内で会開き、2021年の音楽祭を10月13～17日、は5月に開く方針を決めた。21年は、コロナウイルスの影響で中止となったの出演者を中心に招く。音楽祭は、バラの季節の毎年5月の開目しているが、感染の収束が見通せ中、対策や準備に万全を期すために21秋にずらす。会場は同市松浜町のリー

らの音楽祭 来年は10月

福山 今年出演予定者中心に

ローズに絞り、今年出演予定だった広響楽団をはじめ、国内の演奏家に出演する。立小の5年生全員を招待する公演数を増やし、密な状況を避ける。市民を募る音楽団のうち、合唱団について染リスクを考慮し、結成の可否を慎重討する。行委の作田忠司委員長は「最大限の対取って、生の音楽を届けたい。気を引いて取り組む」と力を込めた。(吉原健太郎)

コーンや、車止めを飛び越えて遊ぶ利用者もいる。歩行者との接触などにつながる恐れもあり、他の利用者たちから「危険だ」「パークをなぜ使わないのか」との声が上がっている。市は今年、通路2カ所に「スケボー 走行禁止」などの路面標示をしたが、違反行為は続いている。

このため、市や市スポーツ協会、市民団体などでつくる「あしだがわ利活用推進委員会」が、ボーダーへの注意喚起や清掃活動に取り組んでもらう事業者を公募する。社会実験は28日から11月29日。事業者は、市が広場内に設置する仮設店舗を約2万円で借り、物品

市「後継探し関与せず」

市議会特別委で関連質疑

尾道駅前テナント撤退 常石グループのTLB(尾道市)が来年2月末でJR尾道駅のテナント事業から撤退する問題を巡り、尾道市議会の決算特別委員会で14日、関連質疑があった。市は、後継のテナント探しなどに関与しない姿勢を示した。杉原孝一郎市議(尾道末来クラブ)が「玄関口の空

を販売することができると。公募は26日まで。市公園緑地課は「行政が常時監視するのは難しく、民間の力を借りたい」と説明。実験で効果があれば、店舗の常設などを検討するという。

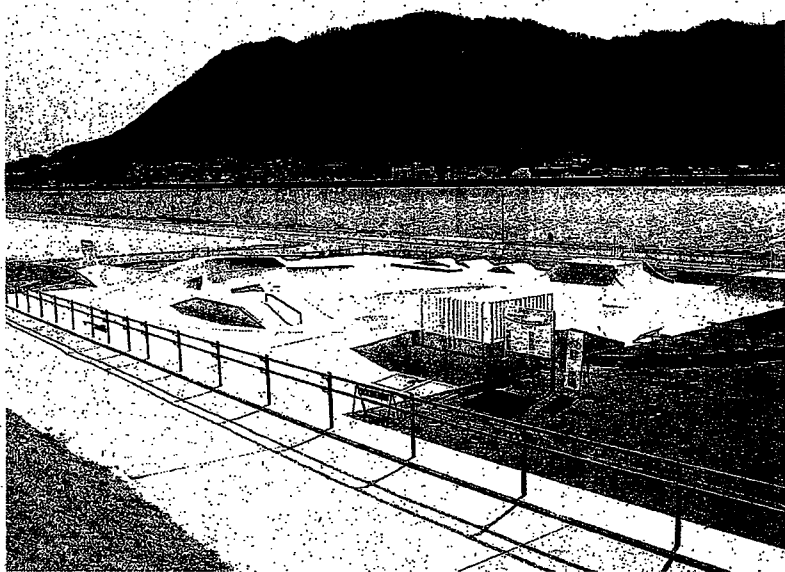
事前の報との杉原原課長が説明あり、待ったと「常石御船町マン、3月末市営御船町の土産(広島)争入札で建物取得している。旧駐車

スケボーパーク 初級者向けにも

福山市は2021年度、初級者向けのスケートボードパークを新設する検討を進める。同市千代田町の芦田川かわまち広場にある既存のパークが「中級者向けで入りにくい」などの意見があるため、関連経費500万円を21年度当初予算案に盛り込んだ。

(吉原健太郎)

福山市が新設検討



芦田川かわまち広場のスケボーパーク。奥は土の広場

利用マナー向上も目指す

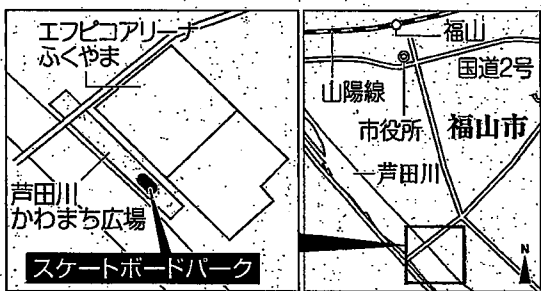
かわまち広場のスケボーパークは20年3月、エフビコアリーナふくやまと共に完成。高低差約1層の障害物10基を設置した真内最大級の施設として人気を集め、約750人が利用登録している。

一方で、パークそばの自転車歩行者用通路を滑るなどのマナー違反が目立つ。市が禁止する「JR福山駅南口の地下通路などで

も若者がスケボーで遊ぶ姿が見られ、苦情が増えている。市などでつくる「あしだ」が活用推進委員会」は20年11月、マナー向上のために社会実験を実施。利用マナーを考えるワークショップなども開いた。参加者たちから「パークの利用は中級者以上が多く、初心者は入りにくい」などの意見が出たという。

これらの状況を受け、市は初級者向け施設の整備検討を開始。21年度はパークの利用者や市内のスケボー禁止場所のマナー違反者を含めた聞き取り調査をする。パーク隣の「土の広場」などを候補に、整備に向けた基本計画の策定、実施設計などを進める。

市公園緑地課の難波和通課長は「利用者の意見をしっかりと聞き、マナー向上につなげる施設にしたい」とする。



家船やダム水没地 今に 三原 郷土史家の調査資料展示



昨本が調査した家船などの資料が並ぶ会場

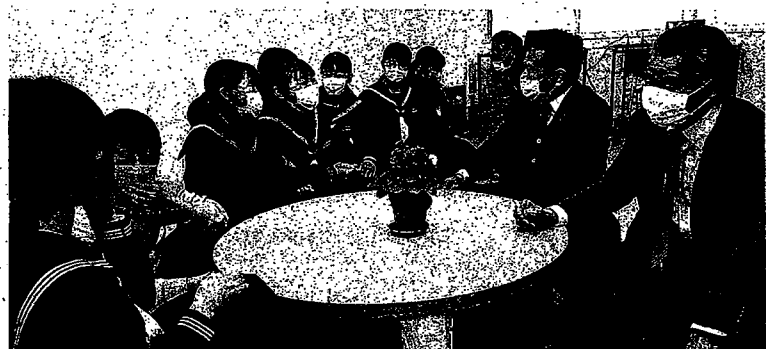
指導 近大福山中の森藤さん

福山(13)が草歩瀨市が由エクト森藤本を自本を指でし指でしつもと4歳

地域住民と保護者、学校の3者でつくる府中明郷学園学校運営協議会(府中市篠根町)は、同校に活動拠点「むらさきラボ」をオープンした。地域ぐるみで学校運営に携わるコミュニティ・スクール(CS)の活動の一環。児童・生徒の学びや交流、地域の魅力発信の場として役立てる。

ラボは、同校1階会議室に開設。約40平方メートルに丸テーブルやクッションを並べ、自由にスペースを使える。12日は、地元の大鼓ユニット「我龍」の演奏をオンラインで視聴。8年生が運営する模擬会社「ハッピープラス」による野菜市や、同校の活動を紹介するDVD上映会などでオープンを祝った。

校内に地域交流拠点「ラボ」



「むらさきラボ」で談笑する生徒と地域住民たち